

科 目 名	プレゼミナール III	備 考
単 位 数	2 単位	

齋 賀 和 彦

映像プロダクションワーク（撮影から編集まで：ベーシックな力を身につける）

1. 講義内容

映像を作るという事は、なにを伝えたいかを考え（企画）、どう伝えるかを考え（演出設計）、実際に動画として撮影し（プロダクション）、その動画をひとつの時間軸をもった物語に仕上げる（ポストプロダクション）という複数の作業の集合体です。映像が総合芸術と言われるゆえんはそこにあるのです。このプレゼミではその多彩な映像制作のワークフローを体験、全体像を理解することを目的としています。映像はひとりで作る事は出来ません。協力し合い、分業し、集約するグループワークの面白さ、難しさをゼミを通して実感して欲しいと思います。

2. 到達目標

本格的な映像制作を行う3年次以降に必要となる基礎的制作スキルとしてプレゼミナールでは主にデジタル一眼レフによる撮影とデジタル映像編集系の内容に特化したスキルトレーニングを行います。事前のスキルは問いませんが、撮影の技術的能力取得、コンピュータ操作、取扱い等、専門技術的な要素も多いため、それについていく努力は必要です。映像は、感性と技術の二頭立ての馬車です。自分の想いを的確な形にするための技術力を大学生活の前半のうちに取得して欲しいと思います。そして、技術取得を通じ、映像に対する美意識と表現力を磨いて欲しいと考えています。

3. 関連科目

デジタルフォト実習

4. テキスト・参考書等

テキスト

必要に応じて、レジュメや資料を配付します。

参考書籍

「映画制作ハンドブック」林和哉 著 玄光社

5. 授業外における学習方法

課題制作時には、授業時間外での撮影、準備等が必然的に発生する。その多寡は作品の内容により異なるが、授業時間内のみで課題作品が完成することがないのは予め理解されたい。標準モデル 事前調査 1 時間、画コンテ企画書等作成 2 時間、チーム打合せ 1 時間。

6. 成績評価方法

多岐にわたる工程を体験、理解することが重要なため、積極的な参加態度が評価の重要なポイントとなる。出席を含む積極的授業関与 50%、実技評価（中間および最終）50%。

授業回数の 2/3 以上の出席をしないと単位評価は行わない（不可）。

遅刻は 2 回で欠席 1 回と見なす。（例：全回出席でもすべて遅刻していたら単位取得できない）

授 業 計 画			
第 1 回	ガイダンス：機材扱いのルールと心構え	第 9 回	トランジションとエフェクト
第 2 回	カメラ操作と実習 1	第 10 回	縦軸とパラメータおよびサウンド
第 3 回	露出と被写界深度（映像理論）	第 11 回	カラーコレクション
第 4 回	レンズワークと画作り	第 12 回	タイトルワーク
第 5 回	動画撮影と実習 2（天候により 6 回と入替）	第 13 回	合成・出力
第 6 回	スタジオ撮影（天候により 5 回と入替）	第 14 回	実技考査
第 7 回	撮影実習と講評	第 15 回	総括
第 8 回	インターフェイスと基本編集（横軸）		